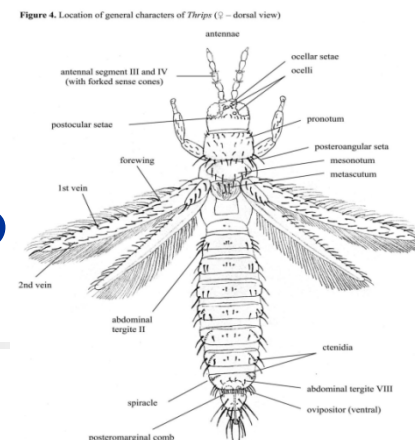


ISPM 27

「規制有害動植物の同定診断 プロトコル」 付属書案

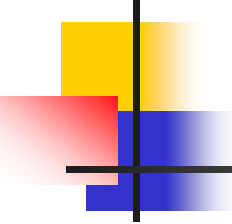
同定診断プロトコルとは？



- 病害虫を正確に見分ける手順並びに方法
(同定) を記述したもの

利用場面

- 輸入農産物から発見される病害虫の同定診断
- 病害虫のサーベイランス
- 植物検疫証明に関連する病害虫の同定診断



同定診断プロトコルを作成する 背景・目的

背景

- 適切な植物検疫措置を適用するためには、病害虫を適切に検出・同定をするための同定診断プロトコルが必要
- 各国・地域の植物防疫機関が独自に様々な病害虫の同定診断プロトコルを策定

目的

調和のとれた国際的な同定診断プロトコルにより、各国による同定診断結果の相互承認を促進

ISPM 27の構成

「規制有害動植物に対する同定診断プロトコル」

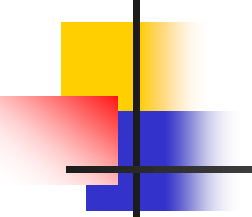
同定診断プロトコルの内容、目的及び使用、公表及び策定のための枠組みを定めたもの

- 個々の病害虫に関する同定診断プロトコルは本基準の付属書として定められている。
- 2021年8月現在、**29本**の付属書が採択されている。

採択された付属書の例

ミナミキイロアザミウマ
*Anastrepha*属（ミバエ科）
ヒメアカカツオブシムシ
ミカンコミバエ種群
アメリカオオハリセンチュウ

ウメ輪紋ウイルス
カンキツかいよう病
ジャガイモやせいもウィロイド
Xylella fastidiosa
マツノザイセンチュウ



これまでの経緯

- 2006年 4月 IPPC総会でISPM No.27（規制有害動植物に対する同定診断プロトコル）が採択
- 2010年 3月 IPPC総会でISPM 27の付属書として「ミナミキイロアザミウマ」の同定診断プロトコルが採択

以降、毎年、1～8本の付属書が採択

- 2021年 7～9月 1本の同定診断プロトコル案「カンキツグリーンング病」が加盟国協議

カンキツ属におけるカンキツグリーニング病の診断プロトコル案

1 カンキツグリーニング病とは

(1) 分類学的情報：難培養性グラム陰性細菌の一種

*Phyllobacteriaceae*科 *Candidatus Liberibacter*属

(2) 病原菌：3種報告

① *Candidatus Liberibacter africanus* (Laf)

② *C.L. americanus* (Lam)

③ *C.L. asiaticus* (Las)

(3) 分布地域：

アジア（日本でも鹿児島県及び沖縄県の一部で発生）、中東、
アフリカ、アメリカ合衆国、中南米、大洋州の熱帯・亜熱帯地域

(4) 宿主植物：

カンキツ類（カラタチ属、キンカン属、ミカン属等）

(6) 病徴・被害：

亜鉛欠乏症のような葉脈やその隣接組織の黄化、葉全体の黄化、落葉、落果、枝枯れ、植物全体の衰弱、枯死。

(7) 伝搬様式：

ミカンキジラミ（国内既発生、奄美大島以南に生息）、ミカントガリキジラミ（国内未発生）による虫媒伝染
苗木等の人為的移動



カンキツグリーニング病罹病樹（左）
及び健全カンキツ樹（右）



カンキツグリーニング病に罹病した
カンキツ葉と果実の症状

2 検出・同定方法

